

## 平成29年度第3回岡山県和牛改良委員会 議事概要

- 1 日 時 平成30年2月6日(火)13:30～
- 2 場 所 全農岡山県本部総合家畜市場(真庭市草加部)
- 3 出席者 委員 : 11名 事務局 : 4名
- 4 諮問事項

### (1)直接検定終了牛等の措置について

今回、直接検定が終了する3頭のうち「利花国」は、体積・均称に優れ、ゲノミック評価でもやや高い評価であるため、今回の処置を「保留」とし、平成30年5月に直接検定終了予定の4頭とあわせ、次回改良委員会で調整交配に供する候補種雄牛を検討することとした。

なお、「清花国」、「義勝幹重」については、体型面に難があり、ゲノミック評価も低いことから、去勢後肥育されることとなった。

### (2)後代検定終了牛の措置並びに種雄牛の繋養計画について

#### 1)後代検定終了牛の措置(案)

##### 【新百合】

検定18頭全頭が終了。肉質は良好で、基幹種雄牛と同等の成績であったが、肉量の面でやや惜しまれる点あったため、今回、保留扱いとされ、今後の候補種雄牛の成績と比較して次回以降の委員会で改めて扱いを審議することとされた。

##### 【花千代】

本牛は、期待育種価が非常に高く、すでに母牛が死亡していることから、今後同じ種雄牛は生産されないことから、平成26年度第1回改良委員会で検討した結果、研究所内で試験交配を行い、産子の調査を行ってきたものである。

検定8頭全て終了。期待されていた肉質の成績が芳しくなく、肉量も劣っていることから、淘汰することとされた。

#### 2)種雄牛の繋養計画について

##### 【新秀矢吹】

本牛は、第11回全共に出品され、1頭3席に入賞し、前回の改良委員会で候補種雄牛に選抜したが、耐凍能に難が認められ、精液の凍結融解後の活力が条件を満たさず、いまだにストロー製造に至っていない。

今後も改善の見込みが判断される場合は、去勢後肥育することです承された。

### (3) 平成30年度種雄牛作出方針について

第11回和牛全共宮城大会での成績等を受け、能力と市場性の高い種雄牛づくりを求める声が高まっていることから、これまでに加え、幅広い視点からの作出を行うことができるよう改正することされた。

#### ○主な改正点

- ・ 改良の方向性について、肉質に加え、食味を追加する。
- ・ これまでの育種価に加え、ゲノミック評価を含めた遺伝的能力評価を基本とすることとした。
- ・ 肉量に関する評価については、これまでの枝肉重量、ロース芯面積に加え、歩留基準値を加えることとした。
- ・ これまでの候補牛作出のための指定交配方針の他、特に改良委員会が認めるものについては、別途、候補牛を作出できることとした。

### (4) 岡山県和牛改良委員会規約第4条(組織)の改正について

和牛改良委員会の活性化と委員会で決定した事項をより迅速に現場に伝えることを目的として、現行委員に加え、新たに委員の追加を検討することとした。

追加する委員(関係団体、生産者代表等)やその選定方法等については、次回以降の委員会で引き続き審議することとした。

### (5) その他

#### 1) 第12回全国和牛能力共進会の取組について

第11回和牛全共宮城大会での反省点から、早期に取組方針等を決定し取組を開始する必要があることから、基本方針(素案)を提示し、次回、委員会で検討することとされた。

#### 2) 地域からの提案

- ・ 新見市和牛改良組合から、JA阿新の道繁委員を通じ、体型・能力に優れ、市場性の高い種雄牛造成のため、県外精液の導入要望と第12回全共への早期の取組開始への要望があげられた。

他県からの精液導入による候補種雄牛の造成については、改良委員会で審議する必

要があることから、要望のあった当該種雄牛精液の導入について、各委員に持ち帰ってもらい、次回委員会で検討することとされた。

- JAつやまの進委員から、津山市の生産者が所有する県内の育種価上位にランクされた県外導入雌牛を利用した種雄牛造成の提案があったことが紹介されたが、生産者の意向が現時点で明確でなかったため、次回委員会までに生産者に確認し、改めて審議することとされた。